

第二十四回 帝國議會 貴族院議事速記錄第十六號

明治四十一年三月十九日(木曜日)

午前十時六分開議

議事日程 第十六號 明治四十一年三月十九日

午前十時開議

第一 滿洲ニ於ケル領事裁判ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 感化法中改正法律案(政府提出衆議院送付)

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 北海道國有未開地處分法改正法律案

(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 衆議院議員選舉法中改正法律案(衆議院提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 日本水產銀行法案(衆議院提出)

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十 漁業法中改正法律案(衆議院提出)

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十二 市制中改正法律案(衆議院提出)

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十四 町村制中改正法律案(衆議院提出)

第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十六 明治三十四年法律第三十九號中改正法律案(衆議院提出)

第十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十八 明治三十年法律第三十九號中改正法律案(衆議院提出)

第十九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
院提出)

第二十 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(衆議院提出)

第一讀會

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔東久世書記官朗讀〕

一昨十七日本院ニ於テ同意ノ議決ヲナシタル衆議院回付政府提出刑法施行法案ハ即日裁可ヲ奏請シ又同意ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

同日本院ニ於テ採擇ヲ議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

陸軍刑法施行法案

海軍刑法施行法案

同日本院ニ於テ採擇ヲ議決シタル左ノ請願ハ各意見書ヲ付シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

砂糖營業稅輕減ニ關スル請願

新案變聲音符採用ノ請願

北海道鐵道買收ニ關スル請願

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正漏地地價修正ノ請願

樺太島鯨刺網漁業否認ノ請願

廣島江津間鐵道速成ノ請願

渡良瀬川水害救治ノ請願

庄内川改修ニ關スル請願

日露戰役ニ際シ城津居留被害民救濟ノ請願

酒造稅法中改正ノ請願

烟地租特免ノ請願

寺院ニ關スル法律制定ノ請願

租稅整理案ノ營業稅法改正案中物品販賣業稅率ノ甲種ニ豆類及菜種ノ二種ヲ加フルノ請願

郡ノ境界變更ノ請願

酒造稅納期改正ノ請願

烟地租免除ノ請願

同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

第二十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第二十二 地租條例中改正法律案(衆議院提出)
第二十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會

本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ總テ從前ノ例ニ依ル

〔國務大臣伯爵林董君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(伯爵林董君) 従來、滿洲ニ於キマシテ領事裁判ニ對スル上訴ハ長崎地方裁判所及長崎控訴院ニ於テ之ヲ管轄イタシテ居リマシタ、又領事官ノ豫審ヲナシタル重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所ニ於テ之ヲ管轄シテ居リマスノデアリマスガ、今日ニナリマスト關東都督府ニ法院ヲ置キマシテ租借地並ニ鐵道敷地内ノ裁判ヲ管轄シテ居リマスニ付キマシテハ、其沿道ニアリマス所ノ領事裁判ノ上訴モ亦關東州ノ法院ニ、高等法院ニモツテ行キマスコトヲ最モ便利ト考ヘマスニ依テ、從來ノ仕來リヲ廢メマシテ關東都督府ノ法院デ之ヲ管轄スルヤウニ致ジマス見込デ此案ヲ提出イタシマシタノデアリマス、宜シク御賛成ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御質問モナイト認メマスカラ、特別委員ノ選舉ニ移リマス、諸君ニ此際伺ヒマスガ、本日ノ特別委員ハ總テ議長ガ指名ト心得テ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三、感化法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、原内務大臣
感化法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 篠浦勝人

貴族院議長公爵德川家達殿

感化法中改正法律案

感化法中左ノ通改正ス

第三條 感化院ニ關スル經費ハ北海道地方費及府縣ノ負擔トス

第五條 感化院ニハ左ノ各號ノ一一該當スル者ヲ入院セシム

一 滿八歲以上十八歲未滿ノ者ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲

スノ虞アリ且適當ニ親權ヲ行フモノナク地方長官ニ於テ入院ヲ必要ト認メタル者

二 十八歲未滿ノ者ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ヲ出願シ地方長官ニ於テ其ノ必要ヲ認メタル者

三 裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者

第十一條ノ二 國庫ハ道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第十三條ノ二 府縣ハ共同シテ感化院ヲ設置スルコトヲ得

前項感化院ノ管理及費用分擔ノ方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第十三條ノ三 第五條ニ該當スル者ニシテ別ニ命令ヲ以テ定メタル者ハ之ヲ國立感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第六條乃至第九條、第十一條、第十二條及第十三條ノ規定ハ國立感化院ニ之ヲ準用ス

第十四條中「府縣會ノ決議ヲ經」ヲ削ル

第十五條ヲ削ル

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 此感化法ハ御承知ノ通り刑法ノ改正ニ付キマシテ十四歲未滿ノ者ハ罰セザルコトニナリマシタノト、懲治場ト云フモノノ制ノ廢サレマシタニ付キマシテ、此感化法ヲ改正イタスノ必要ヲ認メタ譯デアリマス、又各府縣ニ於テ感化院ヲ設ケマスニ付キマシテハ、國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與ヘテ其成立ヲ促シタイト考ヘマスルシ、又場合ニ依リマシテハ國立ノ感化院ヲ作ルノ必要アリト認メマシテ、ソレ等ノ點ニ於テ感化法ノ改正ヲ提出イタシマシタル次第アリマス、宜シク御審査ノ上、御協賛ヲ希望イタシマス

〔男爵船越衛君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 船越男爵ハ何デスカ

○男爵船越衛君 チヨット質問ヲ致シタイ

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス 宜シウゴザイマス

○男爵船越衛君 本案ハ即チ明治三十三年三月ノ法律ノ改正ニナツテ居リマスガ、此間ニ府縣ノ中デ感化院ヲ設立シタ所ガアリマスカ、若シアレバ何所ニアルカ、其成績ハ斯クスクト云フコトヲ承ハリタイ、シテ此十三條ニ

「府縣ハ共同シテ感化院ヲ設置スルコトヲ得」ト、是デ見ルト云フト府縣デハ出來難イデ、共同サセテ、共同シテサスト云フヤウニナツテ居ルガ、共同ナ

ラバ果シテ出來ルカ如何、且ツ今凡ソノ費用モ分ラヌカモ知ラヌカ
期ウ云
フ改正ヲシテ出セバ各府縣共同シテヤルト凡ソドノ位ノ費用ガ掛ルカト云フ
コトノ凡ソ見込ガアレバ、此三箇條ヲ伺ヒマス

國務大臣原敬君演壇二登凡

○國務大臣(原敬君) 唯今、船越男爵ノ御質問テアリマスか、唯今表テ持參
イタシテ居リマセヌカラ確タルコトハ御答ヘ致シ兼ネマスガ、今日成立イタ
シテ居ル所ノ感化院ハ各地ニ於テ誠ニ僅カナ數デアリマス、然ルニ先刻申シ
マシタヤウニ刑法ノ改正ニ依リマシテハ成ルベク各地ニ之ヲ設ケサセルヤウ
ナ方針ヲ取ラヌケレバナラヌト考ヘマス、又之ヲ成立サセマスニ付キマシテ
ハ、恰モ癩豫防法ノ實施ナドノヤウナ關係ト同様デアリマシテ、相當ノ補助
ヲ國庫ヨリ與ヘナケレバナラヌト云フ必要ヲ認メマシテ此改正案ヲ提出シタ
次第デアリマス、經費ノ點ニ付キマシテ凡ソノ見込モアル譯デアリマスケレ
ドモ、是ハ地方ニ依リマシテ狀況ヲ異ニシテ居リマスカラ極メテ概略ノ外申

上ゲ兼ネマスケレドモ、併シ國庫ヨリ補助スル所ノモノハ左ホド多額ナモノ
デハナイ見込デアリマス、尙ホ委シイコトハ委員會等ニ於キマシテ、ソレソ
レ表ヲ以テ御答ヘ致スコトニ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五、北海道國有未開地處分法改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告

北海道國有未開地處分法改正法律案
右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月十七日

右特別委員長
侯爵 大炊御門幾麿

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔特別委員ノ修正ニ係ル條ノミヲ截錄
ス小字ハ修正文、ハ削除ノ符號〕

第十四條 土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依ル貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ豫定ノ事業方法ニ違反シタルトキハ。其ノ賣拂又ハ貸付ノ處分ハ未成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ

處分ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ
之ヲ取消スヘシ但シ賣拂代金ハ之ヲ還付セス

前項ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障ナシト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部又ハ全部ヲ付與スルコトヲ得

第十八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルニ非スシテ貸付地ヲ返還
○第十四條第一項ノ處分

シ又ハ貸付若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年三
リ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又
ハ交換若ハ第四條、第十四條第二項ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民
有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

第二十條 土地の賣捌又ハ付與ヲ受タル者六月以内
○ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登録スル
記。又ハ登録ノ申請ヲ爲ストキハ其ノ登録税ヲ免除ス

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

附
則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條ノ期間ハ舊法ニ依リ付與又ハ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シテ第十五條ノ期間ヲ超エルコトヲ得

舊法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ハ之ヲ本法ノ特定地ト看做ス
○賣拂ヒ交換若ヘ
舊法ニ依リ。付與シタル土地ノ免租期間ハ仍從前ノ例ニ依ル。但シ其ノ期間
本法施行ノ日ヨリ起算シ十年ヲ超ユルモノハ之ヲ十年ニ短縮ス

〔子爵曾我祐準君演壇ニ登ル〕

○子爵曾我祐準君 北海道國有未開地處分法改正法律案、此案ノ報告ハ委員長大炊御門侯爵ガナサルベキ所デアリマスガ、此委員會ニハ度々御缺席ニナリマシタニ依ッテ便宜上、私ヨリ報告ヲ致シマス、本案ノ審査ハ色ニ餘ホド込入ッタ次第デアリマシタニ依ッテ、一ト通リ御報告ヲ致シマスニハ少シ時間ヲ要シマスカラ豫メ御断リヲ申上ゲテ置キマス、第一ニ本案ノ由來ニ就イ

テ少シ申上ダウゴザイマス、本案ハ北海道ニ取ツテハ最モ重要ナル法律デアリマス、北海道ノ如キ土地ニ餘リアッテ人ノ足ラヌ所ニ於キマシテハ、其餘リアル未開墾地ヲ開キマシテ足ラザルノ所ノ人ヲ導キ集メルト云フコトガ何ヨリ大切デアリマス、申スマデモナインレガ唯一ノ重要ナコトデアリマス、左様ナ譯デアリマスカラ未開墾地ノ處分ニ付イテノ法律、未開墾地處分法ノ歴史ニ溯ツテ見マスレバ、是ハ明治五年ニ始マッテ居リマス、其後幾度カ改正變更アリマシテ、サウシテ現在法トナツテ居リマス、現在法ハ三十一年ノ三月ニ規定サレタ所ノ法デアリマス、現在法ニ於キマシテハ大小地積、即チ大キナ地積デモ小サイ地積デモ委シク云ヘバ小作人ヲ入レテ耕ヤス所ノ大地主即チ大農トモ云フベキモノ、又自分自ラ働イテ人ヲ使ハズニ自分デ耕ヤス小民即チ小農、此大農デアラウトモ小農デアラウトモ、又ハ耕作地デアラウトモ牧場デアラウトモ木ヲ植エル所ノ種樹地デアラウトモ皆ナ無代價デ付與スルコトニ今日デハ相成ツテ居リマス、其以前ハ色ニアリマシタガ、現在ハ左様ニナツテ居リマス、サウシテ開墾ノ上デ愈々自分ノモノニ所有權ヲ決メル時分ニ政府ガ金ヲ取ツテ決メタ時モアリマス、唯今ハ無償付與ト云フコトニナツテ居リマス、即チ初ニ開墾ヲ願フトキハ無償デ貸與シテ、サウシラ成功ノ上、無償付與スルコトニナツテ居リマス、是ガ現在法デアリマス、之ニ伴ヒマス所ノ法律ハ種々アリマスケレドモ大趣意ハ左様ナ譯ニナツテ居リマス、今度政府カラ提出サレタ案ト申シマスルノハ大ニ其趣意ヲ異ニ致シマシテ、大地主ニ對シテハ、即チ小作人ヲ入レテ開ク所ノ大地主ニ對シテハ即金拂下法ヲ用ヒル、斯様ニナツテ居リマス、牧地デアラウトモ又耕地デアラウトモ樹林地デアラウトモ、大地主ニ對シテハ價ヲ取ツテ、賣拂ツテ、サウシテヤルト云フコトニナツテ居リマス、又小地主即チ自分で自ラ耕ヤス所ノ小農ニ對シテハ從前ノ通りデアリマス、今日マデ北海道ニ於テ既ニ處分サレタル土地ノ廣サト云フモノハ百三十萬町歩バカリデアリマス、委シイコトハナツテ居リマス、又小地主即チ自分で自ラ耕ヤス所ノ小農ニ對シテハ從前ノ通りデアリマス、或ハ百二十八萬町歩バカリデアリマス、ソレカラ尙ホ此先キ處分セラルベキ土地ノ廣サト云フモノモ是モ大概百三十萬町歩バカリデアリマス、或ハ百二十八萬町歩バカリデアリマス、ソリマセヌガ、其外ニ尙ホ泥炭地ト云ツテ使用ニ供シ難い地所モアリマス、ソ政府ノ見込マレル所デハ百二十八萬町歩バカリノ中デ耕作地トスベキモノガ四十六萬町歩バカリノ積リ、即チ農業地ニシマス所ハ：：其内ノ四分ノ三ト云フモノハ小農ニヤル積リデアル、サウシテ四分ノ一ト云フモノ即チ十一萬

五千町歩バカリハ大農地、其他牧地トシテ七十七萬町歩、樹地トシテ六萬町歩バカリノ見込デアリマス、此牧場樹林地ト云フモノハ決シテ小農ニハ出來ヌコトデアリマスカラ、即チ是ハ大農ニ屬シマスカラ、牧場林地ノ方ハ大農ノ方ガ多ウゴザイマスガ、總面積ニ對シテハ大農ノ仕事ニ屬スベキモノガ非常ニ多いノデアリマス、ソレデ今度改正ノ法案ヲ出サレマシタル趣意ノ重モノハ、政府ノ申ス所デハ弊害ノ重モナルモノハ現今大地積ヲ無代價即チ無償デ以テ貸付若クハ無償デ付與スルニ依ツテ、是ガ弊害ノ基デアル、又地價モ立木ノ價ト云フモノモ昨今ハ非常ニ以前トハ遠ツテ、非常ニ昨今ハ價ガ出テ來タ、ソレ故ニ尙ホ益々縦シヤ興業ニ志ノ無イモノデモガ、良イ土地ヲ澤山ニ占メテ置イテ他日大ナル利ヲ得ヤウ、斯様ナ心ヲ以テ無暗ニ願出ル、又無暗ニソレヲ商賣ノ様ニシテ居ル者モアッテ、土地ヲ得ムコトヲ欲シテ居ル、其内ニハ仲買人ノ様ナ者ガ出來テ種々難多ノ弊害ガアル、是ガ一面ニハ拓殖ヲ阻害スルノ甚シキモノデアル、俗ニ云フ山荒シ、地喰ヒナドト云フノハ此事デアリマス、政府デハ山荒シトカ地喰ヒトカ云フ言葉ハ用ヰテ居ラレマセヌガ、世間デサウ云フモノデアリマセウ、斯ノ如キモノハ矯正セバナラヌ、是ガ第一ノ趣意デアリマス、第二ハ地權ノ利用、即チ土地ノ權利ノ利用、唯論賣買モ出來ズ、金融上ニ不都合デアル、然ルニ今度ハ即金デ賣拂フコトニスルニ依ツテ直ニ融通ガ付キ、即チ擔保ニモ供スルコトガ出來、又之ヲ賣ルコトモ出來ル様ニシテ此缺點ヲ償フ、是ガ第二、第三ニハ新財源、是マデハ無償デアツタモノヲ有償ニ致シマシタカラ、是ガ財源ニナルノハ明カナコトデアッテ、別ニ説明ヲ要シマセヌ、此政府ノ希望通りナラシムレバ、四十一年度ヨリ六十一年度ニ亘ツテ二十年間ニ約九百萬圓クラヰノ土地代價ガ得ラルデアラウ、政府ノ元ノ考へ通りデ賣レルナラバ斯ノ如キ大金ヲ得ルデアラウ、併ナガラ此計算ハ漠然タルモノデ、政府モ屹度一段歩何圓、一町歩幾分リマセヌガ、其外ニ尙ホ泥炭地ト云ツテ使用ニ供シ難い地所モアリマス、ソルデアラウ、政府ノ元ノ考へ通りデ賣レルナラバ斯ノ如キ大金ヲ得ルデアラウ、併ナガラ此計算ハ漠然タルモノデ、政府モ屹度一段歩何圓、一町歩幾ラニ賣レルト云フコトヲ決メタノデハナイ、ザツト推算シタダケヂヤト云フ話デアリマス、況ヤ是ハ二十年先キノコトデアリマスカラ、政府モ勿論確然ト見込ガ立ツタ譯デアリマセヌガ、ザツト九百萬圓得ラレルデアラウト云フ計算ガ出タサウデアリマス、サウシテ此新財源ヲ得タナラバ之ヲ以テ北海道ニ必

要ナル施設ノ費用ニ費用ニ費ヤスト云フ考ヘデアリマス、尤モ申スマデモナイ北海道ノコトハ特別會計デアリマセヌカラ其金ガ直ニ北海道ニ使ヒ得ル譯、ハアリマセヌガ、一ノ財源ガアレバ大藏省ニ持テ行シテモ北海道ニ出ス所ノ金ガ得易イト云ノ趣意デアリマス、デ右ノ理由トシテ尙ホ政府ハ申サレマスニ交通ノ便モ今日デハ大ニ開ケタ、物價モ略々平均シタ、土地材木ニ付イテハ大ニ價格ヲ増シタ、今日ハイツマデモ舊法ヲ墨守スベキ時デハナイト口ヲ極メテ北海道ノ進歩發達ヲ稱揚サレ、又大ニ前日ト同ジカラザルコトヲ喋々說カレマシタ、右ハ本案ノ歴史並ニ提出ノ理由デアリマスガ、第一讀會ノ初ニ於テ此案ニ付イテハ國務大臣カラモ政府委員カラモ此席ニ於テハ何等ノ説明モアリマセヌデシタカラ、諸君ガ此案ヲ決セラレルニ、ドウ云フ趣意デ出タモノデアルカト云フコトノ御疑念ガアラウト思ヒマシテ、此案ヲ判斷サルル御便利ノ爲ニ以上御話シ申シタ次第デアリマス、第二ニハ委員會ノ經過、並ニ第一讀會ノ都合ヲ申上グマス、本委員會ハ去ル六日以來、十七日ニ至ルマデ數回開キマシタ、本案ノ性質トシテ之ニ伴フ施行規則ノ調査ト云フノハ最モ必要ナコトデアリマス、委員會ニ於テハ此事情アルガ爲ニ初メ數回ハ全ク本案ニ付イテノ調査デハナクテ此案ニ伴フ所ノ施行法ノ手續ノ質問ニ數回ヲ費ヤシマシタ、其數回ヲ費ヤシタ後、初メテ本案ノ質問ニ及ビ、更ニ進ンデ討論ニ入りマシタ、討論ニ至リマシテ第一並ニ第二ノ論者ハ共ニ原案反對論者デアリマス、第一ノ論者ノ申サレマス重ナル趣意ハ、政府委員ガ與ヘタル所ノ説明書、並ニ統計表等ヲ調査スレバ實ニ杜撰ナモノデアル、政府ノ立論ノ根據ハ甚ダ不確實ナモノデアル、起案者ハ北海道ノ土地ニハ甚ダ精通シ居ラレヌガ如キ感ヲ起スノデアル、本案第一ノ主眼タル弊害矯正ノ如キハ甚ダ御同意ヲスル所デアル、サリナガラ其實効ニ至ッテハ大ニ疑ヒヲ存スル、却ツテ以前ヨリモ弊害ヲ釀成スル所ノ機會ガ多クハナリハセヌカト云フホド疑フノデアル、大體ヲ摘ンデ申セバ斯ウ云フ譯デアリマス、第二ノ反對論者ハ北海道ノ拓殖ハ今モ尙ホ前日ノ如ク困難デアル、前日ヨリハ宜カラウガ今モ尙ホ困難デアル、説明書ニアル如キ樂ナモノデナイ、交通機關ノ如キモ全體ヲ通觀スレバ尙ホ不便ナ所ガ澤山アル、物價ノ如キモ隅々マデ平均シタトハ言ハレナイ、又北海道ニ於テ企業ト云フモノハ何企業ニ限ラズ利益ガサウ多イモノキ證ヲ舉ゲテ改正案ヲ非難サレマシタ、又最モ強ク土地賣拂ニハ反對サレマ

シタ、此案ノ如クナラバ是ハ謂ハユル角ヲ矯メテ牛ヲ殺スモノデアル、移民ノ心志ヲ阻喪シ開拓事業ヲ阻害スルモノト判定セザルヲ得ヌト第二ノ反對論者ハ反對ヲサレマシタ、第二ノ論者ハ議論デハアリマセヌ、一ツノ建議ヲサレマシタ、其コトハ案其物ヨリモ之ニ伴フ所ノ附屬ノ規定ノ手加減ニ依ツテ大ニ寛嚴ノ度ヲ異ニスル、大ニ事實上ニ異動ヲ生ズベキモノ、デアル、故ニ委員中ヨリ三名ノ小委員ヲ選出シテ政府ニ交渉イタシテ施行規則ニ付イテ十分ニ於テ此案ニ付イテハ國務大臣カラモ政府委員カラモ此席ニ於テハ何等ノ説明モアリマセヌデシタカラ、諸君ガ此案ヲ決セラレルニ、ドウ云フ趣意デ出タモノデアルカト云フコトノ御疑念ガアラウト思ヒマシテ、此案ヲ判斷サルル御便利ノ爲ニ以上御話シ申シタ次第デアリマス、第二ニハ委員會ノ經過、並ニ第一讀會ノ都合ヲ申上グマス、本委員會ハ去ル六日以來、十七日ニ至ルマデ數回開キマシタ、本案ノ性質トシテ之ニ伴フ施行規則ノ調査ト云フノハ最モ必要ナコトデアリマス、委員會ニ於テハ此事情アルガ爲ニ初メ數回ハ全ク本案ニ付イテノ調査デハナクテ此案ニ伴フ所ノ施行法ノ手續ノ質問ニ數回ヲ費ヤシマシタ、其數回ヲ費ヤシタ後、初メテ本案ノ質問ニ及ビ、更ニ進ンデ討論ニ入りマシタ、討論ニ至リマシテ第一並ニ第二ノ論者ハ共ニ原案反對論者デアリマス、第一ノ論者ノ申サレマス重ナル趣意ハ、政府委員ガ與ヘタル所ノ説明書、並ニ統計表等ヲ調査スレバ實ニ杜撰ナモノデアル、政府ノ立論ノ根據ハ甚ダ不確實ナモノデアル、起案者ハ北海道ノ土地ニハ甚ダ精通シ居ラレヌガ如キ感ヲ起スノデアル、本案第一ノ主眼タル弊害矯正ノ如キハ甚ダ御同意ヲスル所デアル、サリナガラ其實効ニ至ッテハ大ニ疑ヒヲ存スル、却ツテ以前ヨリモ弊害ヲ釀成スル所ノ機會ガ多クハナリハセヌカト云フホド疑フノデアル、大體ヲ摘ンデ申セバ斯ウ云フ譯デアリマス、第二ノ反對論者ハ北海道ノ拓殖ハ今モ尙ホ前日ノ如ク困難デアル、前日ヨリハ宜カラウガ今モ尙ホ困難デアル、説明書ニアル如キ樂ナモノデナイ、交通機關ノ如キモ全體ヲ通觀スレバ尙ホ不便ナ所ガ澤山アル、物價ノ如キモ隅々マデ平均シタトハ言ハレナイ、又北海道ニ於テ企業ト云フモノハ何企業ニ限ラズ利益ガサウ多イモノキ證ヲ舉ゲテ改正案ヲ非難サレマシタ、又最モ強ク土地賣拂ニハ反對サレマ

シタ、此案ノ如クナラバ是ハ謂ハユル角ヲ矯メテ牛ヲ殺スモノデアル、移民ノ心志ヲ阻喪シ開拓事業ヲ阻害スルモノト判定セザルヲ得ヌト第二ノ反對論者ハ反對ヲサレマシタ、第二ノ論者ハ議論デハアリマセヌ、一ツノ建議ヲサレマシタ、其コトハ案其物ヨリモ之ニ伴フ所ノ附屬ノ規定ノ手加減ニ依ツテ大ニ寛嚴ノ度ヲ異ニスル、大ニ事實上ニ異動ヲ生ズベキモノ、デアル、故ニ委員ガ出マシタ所ガ、委員會ハ小委員說ヲ容レマシテ、直ニ三人、即チ北垣男爵、原保太郎君、ソレニ本員、此三人ガ其小委員ニ選バレマシテ、政府ト交渉ヲ始メマシタ、第三ニハ小委員ノ經過報告ヲ申シマス、右ノ譯ニ依ツテ小委員ハ直ニ政府ト交渉ヲ始メマシテ種々協議ヲ致シマシタ、然ル後、一ツノ協議事項ト云フモノヲ交渉中ニ擇ヘマシタ、之ヲ讀ミ上グマスガ、實ハ委員會速記録ノ第六號ノ初二載シテ居リマスカラ、速記録ヲ御持チノ方ハ宜シウゴザイマスガ、御持合セノ無イ御方ノ爲ニ一應協議事項ヲ朗讀シマス

第一 土地賣拂代價ニ付テ

一 農耕適地賣價ハ一町步金四圓五十錢以内卽チ一千坪ニ付一圓五十錢以内トス

二 牧畜適地賣價ハ一町步金三圓以内卽チ一千坪ニ付一圓以内トス

三 植樹適地賣價ハ一町步一圓五十錢以内卽チ一千坪ニ付五錢以内トス

以上價格ハ明治五年以來同十九年迄實施シタル北海道土地賣貨規則ノ賣價ニ則リタルモノナリ

第二 未開地ノ立木賣拂ノ方法ニ付テ

未開地ノ立木ハ農耕適地、牧畜適地ニ對シテハ其地積内ニ於ケル可用立木ノ二割ヲ付與スルモノトス

第三 地積制限ニ付テ

一 農耕適地ハ五百町步卽チ百五十萬坪

二 牧畜適地ハ八百町步卽チ二百四十萬坪

三 植樹適地ハ八百町步卽チ二百四十萬坪

以上ノ事項ハ之ヲ勅令ヲ以テ規定スルコト
小委員ドモ初メノ希望ハ此三箇條ヲ法律ノ正文ニ加ヘラレムコトヲ希望シタノデアリマス、併シ斯ノ如クシマスルニハ種々ノ手數ガ要リマスシ、ナカナカ

急ノ間ニ合ヒマセヌノミナラズ、從前ニ於キマシテモ是等ノ制限ハ勅令若クハ訓令ヲ以テ規定シテアリマシタニ依ッテ、勅令ニ加ヘルコトニ同意ヲ致シマシタ、尤モ施行規則ノ勅令ニハ此外ニ色々規定サルベキコトハ澤山アリマス、故ニ此施行規則ノ勅令モ完全ニ何モ彼モ含有シタ所ノ立案ハ面倒デアリマス、又我ニガ必シモ關係スル必要ノモノデモアリマセヌニ依ッテ、唯此三件ノ制限デアリマスガ、初メ政府ハ之ニ對シテ耕作地九圓、牧畜適地六圓、植樹ノ地ガ三圓、シカモソレハ最高價額デハナク、平均九圓、六圓、三圓、斯ノ如クスル見込デアリマシタ、委員等ハ實ハ其積リノ餘リ高價ナルノニハ驚キマシタ、色ニ政府カラ提出サレタ材料ニ依リマシテ調ベテモ見マシタガ、ドウモ今日斯ノ如ク高ク見ルノハ、チト不當デアラウト云フ鑑定ヲ委員デハ下シマシタ、サウシテ委員ノ方デハ三圓、二圓、一圓、此三種ニシマシテ、ソレヲ最高價額ト致シテハ如何ト云フコトヲ交渉イタシマシタケレドモ、政府ハ堅ク争ヒマシテ今少シ高イ所ニシテ置キタイト云フコトデアリマシタカラ、前ニ朗讀シマシタル如ク、四圓五十錢、三圓、一圓五十錢此三種ニ中折レト云フ譯ニ、詰リ落著シマシタ、尤モ其朗讀シマシタ通り最高價額デゴザイマシテ、決シテ平均價額デハアリマセヌ、ソレ故ニ若シモ其土地ノ惡ルイ所ニナリマシタナラバ耕作地デ云ヘバ最高價額ガ四圓五十錢デアリマスカラ、段々惡ルイ所ハ二圓、一圓、マダ惡ルイ所ハ一圓以下ニ這入ルト云フヤウナコトニナリマスノハ自然ノ勢ヒデアリマス、況ヤ牧畜地ノ如キハ極ク廉イモノニナラウト思ヒマス、事實ニ於テハ政府ノ主張ヨリハ三分ノ一クラヰニモナラウカト、マア思ヒマス、其上ニ是ハ賣ル物デアリマスカラ買ヒ手ガ無ケレバ政府ハ自然直段ヲ下ゲテ行クヨリ仕様ガアリマスマイト思ヒマス、第二項ハ立木ノ件デアリマス、是ハ法律ニハ何モ見エマセヌ、一モ明文ニハ見エマセヌ、併シ拓殖上ノ關係ハ最モ大ナルノハ此立木ノコトデアリマス、ソレデ重要事項ト認メマシテ委員ノ交渉ノ一條件ト致シマシタ、元來ハ立木代ハ全ク大農デアラウトモ小農デアラウトモ全部吳レタモノデアリマスガ、昨四十年ノ二月以來ハ大小農トモニ立木ノ二割ダケヲ無償付與シテ、八割ダケヲ官ニ取ルト云フコトニ改メマシタ、是ハ現在ノ處分法ニハ何等ナイ所デアリマス、是ハ訓令デサウ改メマシタ、然ルニ今度政府ノ考デハ此法實行ト共ニ更ニ改メ

マシテ小農ニハ全部ヲ遺ハス、今マデニ一割シカ遺ハサナカツタノヲ全部ヲ遺ハス、今マデト申シマスノハ昨年ノ二月以後ノコトデアリマス、サウシテ大農ニハ二割ヲ遺ハシ居タノヲ全部取上ゲル、即チ政府ハ即金デ賣拂フ、斯様ニスル考デアリマシタ、政府ハ斯ノ如キ考デアリマシタニ依ッテ我ニドモ考ヘマシタノニ、此小農ニ對シテ全部ヲ與ヘルコトニスルノハ厚キニ從フコトデアリマスカラ異論ノ有リヤウハ無シ、今マデニ一割シカヤラナカツタノヲ全部ヤルト云フコトデアリマスカラ是ハ異論ハアリマセヌ、寧ロ大贊成デアリマズ、大農ハ元來元ハ全部デアッテ、昨年以來ニ一割ヤルコトニナツテ居ツタ、ソレヲ今度ヤラナイト云フコトハ隨分ヒトイデアラウ、斯ノ如クナレバ小作人ノ小屋掛ラスル材木サヘ他カラ求メテ來ナケレバナラヌコトエナルデアラウ、牧場デアレバ牛馬ノ出ナイ爲ニ柵ヲ設ケル、其柵ニ用ガル材木サヘモ買ハナケレバナラヌコトニナリハセヌカ、ソレ故ニ先刻朗讀シマシタ如ク大農ニ對シテモニ割ダケハ無償付與ニ致シマシタ云フ交渉ヲ致シマシテ、政府モ之ヲ容レテ左様ナリマシタ、唯樹林ヲ造ル所ノ土地ダケハ是ハ別ニ大シタ材木ノ必要モアルマイニ依ッテ材木ガアレバ皆賣拂フ、即チ大農ニハヤラナイ、斯ウ云フコトニ協議事項デハ決リマシタ、又立木ノ價ハ平均ドレ位ノ積リデアルカト云ヘハ、平均一町歩ニ付イテ十二圓五十錢ト云フ積リデアル、尤モ立木ノコトデアリマスカラ、マルデ無イ所モアリマス、ハダカ山モアルガ、ソレモ平均シテ十二圓五十錢ト云フ、斯ウ云フ定メデアリマスカラ、一方ニハ餘程高イ木ガナクテハナラヌカラ、ドレ位ノモノガアラウカト云フコトヲ問ヒマシタラ、宜シイ所ハ三四十圓、一町歩ニ付イテ三四十圓ノ價アル所モアラウト思ウテ居ル、是ハチト高過ギハセヌカト思ヒマスケレドモガ、此賣拂方法ニ付イテ能ク承ッテ見マスルト、政府ハ評價員ト云フモノヲ置キ、其材木ノ價ヲ評價セシメ、サウシテ賣ル、賣ル趣意ト云フモノハ別ニ其地主タルベキ所ノ、即チ土地ヲ買フ所ノ人ニ迷惑ノ掛ラヌヤウナ其場所相當ノ價ニ賣ル、趣意ニ於テハ別シテ其新ニ賣ル所ノ地主、新ニ得ムトスル所ノ地主ニ迷惑ノ掛ラヌヤウニスルト云フコトデアリマスルニ依ッテ、是ハ如何ニ高ク政府ガ見テモ其所ノ相場ガ廉ケレバ廉イ、又果シテ高ケレバ高イ、別ニ是ハ開拓者ニ取ッテハ直接ニ何等ノ利益モ無ケレバ損害モ無イト思ヒマスルニ依ッテ、此事ニ付イテハ別ニ協議事項ニモ加ヘズ、又多ク議論モゴザイマセヌデアリマシタ、第三ノ今ノ事項ハ大農ヘ賣拂フ地積ノ制限デアリマスガ、是ハ政府ノ初メノ考デハ新法ト

共ニ從來ノ地積ヲ減ジ耕地五百町歩デアッタノヲバ二百町歩ニ、牧畜植樹地八百町歩デアッタノヲ五百町歩ニ減ズル、即チ五百町歩ヲ一百町歩ニ、八百町歩ヲ五百町歩ニ減ズルト云フ見込デアッタガ、斯ノ如クナツテハ或ハ大農家ガ經濟ノ合ハナイト云フ理由ヲ以テ段々企業者ガ減ルデアラウト云フ心配ガアリマスニ依テ從前ノ如ク据置カレムコトヲ希望イタシマシタ、是ハ政府モ直ニ同意サレマシタ、以上三項共ニ悉ク是ハ大農ノ権利ニ係ルコトデアリマスガ、小農ニ付イテハ如何ト云フニ、先刻モ申シマシタ通リ政府ノ今度ノ案ト申シマスモノハ、小農ニ付イテハ頗ル寛裕ニナツテ居リマス、地積ノ如キモ從前ハ五町歩ニ限ラレテ居ッタノヲ、小農ニ對シテハ十町歩マデ場所ニ依テハ許ス、又立木ノ如キモ昨年以來二割ノミ無償付與スルトナツテ居ッタノヲ今度ハ全部ヲ付與スルコトニナリマシタ、此全部付與スルト云フコトハ實際、是ヨリ外ニ仕様ガナイカラデアラウト推察シマシタケレドモ、兎ニ角、小農ニ取ツテハ幾ラカ寛典ニナリマス、故ニ小農ニ付イテハ何等要求スル所モナケレバ、政府ノ意見外ニコチラカラ何モ氣付キヲ申シタコトモアリマセヌ、之ヲ要シマスルニ此法案が通過イタシマスレバ、此協議事項ヲ以テ勅令デ定メテ實行ヲサレル曉ニハ、大農ニ取ツテ現行法トドンナ違ヒガアルカト申シマスト、其重モナルモノハ、是マデハ土地ガ無償貸付デアッタノヲ、今度ハ賣拂フ、即チ即金上納トナル、是ガ第一ノ變リデアリマス、サウシテ其價ハ先キニ申シマスル如ク最高：一一番高イ所ガ四圓五十錢、惡ルイ所ハ一段々遞減スル、耕地トシテ一番良イ所ハ四圓五十錢、惡ルイ所ハ遞減スル、牧畜地ノ良い所ハ三圓、惡ルイ所ハ遞減スル、樹林地ノ一番良イ所ハ一圓五十錢、サウシテ惡ルイ所ハ遞減スル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、サウシテ又一方ニソレト同時ニ今度ハ賣拂デアルガ爲ニ所有權ガ直ニ生ジテ來マス、今マデハ貸付デアルカラ所有權ハアリマセヌデアッタガ、今度ハ金ヲ出シテ買取ル爲ニ直ニ所有權ガ生ジマス、是ハ又開墾者ナリ牧畜者ナリ大農ノ方ノ利益デアラウト考ヘマス、其他ノ多少ノ違ヒハ本案ノ逐條ニ付イテ申シマス積リデアリマスカラ茲ニハ略シ置キマス、協議事項ノ三件ニ付キマシテノ説明ハ唯今申シタ通りデアリマスガ、一言申添ヘテ置キタイノハ、今日ニ於テハ尙ホ北海道ニ大農ヲ引入ルルノ必要アルヤ否ヤト云フ一點デアリマス、何人モ今日ニ於テハ尙ホ必要アリト答ヘルデアリマセウ、況ヤ此牧畜業ノ如キハ今後何人モ多ク望フ北海道ニ屬シテ居リマス、又北海道ニ最モ適當ナ業デアリマス、

セウ、尙ホ此上、日本ニ多クノ牧畜場ヲ作ラナケレバナラヌト云フコトハ、何人モ感ジテ居ルコトデアリマセウ、此牧畜業ノ如キコトハ到底小農デハ出来能ハヌコトデアリマス、ソレ故ニ北海道ノ事業ニ付イテ企業者ヲ阻害セシムズ、開拓業ヲ阻害セシメズ、尙ホ益々進ンデ盛ナラシムルコトハ第一ノ緊要事件ト思ヒマス、古語ニモ水清ケレバ魚棲マズト云フコトガゴザイマスカラ、遺利ガ無ケレバ民ガ入リマセヌニ依テ、多少ノ遺利ハ企業者ニ得セシムル所ガナケレバ決シテ開墾ノ事業ハ進ムマイト堅ク信ズルノデアリマス、是等ハ小委員會ノ最モ主張シタル根源ノ理由デアリマス、然ル後此報告ハ委員會ノ容ルル所トナリマシテ、再び討議ニ移リマシタガ、反對贊成ノ議論ガ又再び委員會ニ起リマシテ、一時ハナカナカ盛デアリマシタ、尋イデ大體議ニ付イテ委員長ガ採決サレマシタガ、タシカ二人ニ對スル六人ト心得テ居リマス、二人ニ對スル六人ヲ以テ可決イタシマシタ、サウシテ第二讀會ニ移ルベシト云フコトニ相成リマシタ、第四ニハ第二讀會ニ付イテ申上げマス、第二讀會デアリマスニ依テ逐條審議ニ移ルコトニナリマシタガ、其初二ニ當リマシテ先キニ反對ヲサレタ所ノ一人ガ申サレマスニ、本案ノ土地賣拂ニ對シテハ自分ハハドコマデモ持論ハ反對デアッタケレドモガ、最早格別反對ヲ主張スル必要ハ無イニ依テ、モウ異議ハ申サヌ、即チ此修正案ニ諸君ノ盡力ニ對シテモ反對者ハ此時分ハ退席サレマシタニ依テ第二讀會以後ニ於キマシテハ全會一致ヲ以テ此修正ヲ致シマシタ、政府モ亦修正ニ付イテハ總テ同意ヲ表セラレマシタ、今ヨリ修正ノ條項ニ付イテ少シク説明ヲ致シマス、本案ノ第二條、即チ「土地ノ賣拂」云々、是ガ先キニ申シマスル所ノ最モ重モナル本案ノ以前ト違ッタ所ノ條項デアリマス、第三條ノ所ニ「特定」ト云フ字ガアリマスガ、是ハ元ノ區劃割ト申シタ小農ニ與ヘル所ノ地面ノコトデアリマス、是ハココデハ何トモ書イテアリマセヌガ、先キニ申シマシタル通リ是マデ五町デアリマシタガ以後ハ十町マデヤルト云フコトニナリマシタ、併シ普通ハ五町ヲ以テ目的トスル、地味ガ惡ルイトカ地形ガ惡ルケンバ十町マデニ及ブト云フ趣意デアリマス、其他大概以前ト同様ナ條項デアリマスカラ、一々各條ニ就イテ説明ハ致シマセヌガ、第十四條、是ニハ比較的、大キナ修正ヲシテアリマス、

併ナガラ事實ハ殆ド同ジコトデアリマス、此原案ノ言葉ノ立テ様ガドウモ穩
デナイ、此言葉ノ立テ様デ見ルト約束通り行ハナカツタモノハ開墾シタ所モ
開墾セヌ所モ皆引上ゲラ仕舞フ、サウシテ間ヘガ無ケレバ開墾シタ所ダケハ
幾ラカヤルト云フ風ニナツテ居リマス、是ハ現行法トモ言葉ノ立テ様ガ違フ、
ソレデ今度ハソレヲ約束ノ全部ニ於テ約束ニ違ツテ居ラウガ、開墾シタ所ダケハ
ハ兎ニ角、本人ニヤツテ約束通り開墾シナカツタ未開墾地ヲ取上ゲル、其場合
ニナツテ土地ノ整理上ノヤウナコトデ已ムヲ得ストキハ開墾シタル所モ取上
ゲル、兎モ角モ開墾シタ所ダケヤッテ、開墾シナイ所ヲ取上ゲル、斯ノ如クシ
タ方ガ穩デアルト委員デハ認メマシテ此案ヲ出シマシタ、ソレカラ二項ノ所
デゴザイマスガ、此二項ハ元ハ一項ニアリマシタノデアリマス、是ハ少々不穩
ノヤウニ聞エマス、一度賣拂ッタモノヲ約束通り開墾ヲセネバ取消スト云フ
論デアリマスカラ、貸シタ物ナラ宜イケレドモ賣ッタ物ヲ取消ス、又取上ゲ
ルト云フコトニナルト、サウスルト代價ヲヤラナイト云フコトデアリマスカ
ラ、チヨット見マスト隨分穩カナラヌ無理ナコトノヤウニアリマスケレドモ、
是ハ北海道ノ事情ニ少シク御通ジニナツテ居ル御方ハ能ク御承知ノ筈デアリ
マスガ、北海道ノ弊害タルヤ其大キナ土地ヲ占領シテ手ヲ著ケズシテ、サウ
シテ周圍ノ人ガ勉強シテ働ケバ自然其土地ガ騰ガル、自分ハ懷ロ手ヲシテ居
ツテ儲ケヤウトシテ居ル者モ澤山アツテ、何モセヌモノハ取上ゲルト云フコ
トハ北海道ノ事實ニ徴シテドウシテモ置カナケレバナラヌト云フ必要ナ事柄
ト考ヘマス、理窟ヲ言ヘバ無理ノヤウニ聞エマスケレドモ實際、北海道ヲ開
クニハ最モ先キニ其弊害ヲ止メナクチヤナラヌ、ソレデ餘儀ナク「前項ノ場
合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還付セス」取上ゲテ仕舞フ
トス様ニナラネバナラヌト思ヒマシテ、委員ガ之ヲ修正シタノハ文字ノ並ベ
様デアリマス、此趣意ハ原案ニモアリマシタガ、委員モ之ニ贊成ヲ致シマシ
タ、是ハ餘儀ナク贊成シナケレバナラヌ條項ト思ヒマス、又拓殖ニ從事スル
者ハ初メニ此約束デ行クノデアルカラ、ソレガイヤナラ行カヌマデノコトデ、
此約束ニ依ツテ行クノデアリマスカラ、アトニナツテ小言ノ言ヒ様ハアルマ
イト思ヒマス、十五條ニ付イテハ少シ以前ト違ヒマス所ノ第一號ノ「一年」ト
アル所ガ元「二年」デアリマシテ、第二號ノ「二年」トアルノガ元「三年」デアリ
マシテ、是ハ小事件デアリマスカラ別段説明ヲ致シマセヌ、第十八條ノ修正
ハ、是ハ十四條ノ修正ノ先ヅ結果デアリマス、別ニ説明ハ致シマセヌ、第十

九條、是ニハ二タ所修正ニナツテ居リマスガ、北海道デハ是マデハ鍼下ト申
スガ如キ時間ガ甚ダ長クアリマシテ、開墾イタシマシテ、サウシテ已ニ所有
權ガ歸シマシテヨリ凡二十箇年ニ致シタイ、斯ウ云フ案デアリマス、隨分長イ免租デアリマス、
然ルニ此度ハソレヲ十箇年ニ致シタイ、斯ウ云フ案デアリマス、併ナガラ二
十箇年ヲ十箇年ニスルト言ヘバ半分ニ縮メルヤウデアリマスケレドモ、事實
ハ少シクソレヨリモ寛裕ナンデ、ナゼナラバ今度十箇年デ開墾スルト云フ約
束ヲシテ、若シ五箇年ニ開墾シテ仕舞ヒマシテモ其開墾年間ノ間ガ十箇年間
ト云フコトデアリマスカラ、初メ十箇年中ニ成功スル約束ガ五箇年間ニ成功
シテモ矢張リソレハ縮メマセヌノデアリマスカラ、著手シテ二十箇年ノ後デ
ナケレバ稅ガ付カヌト云フコトニナリマス、以前デ見マスレバ成功シテ既得
權、即チ所有權ヲ得レバソレカラ二十年ト云フ譯デアリマスカラ、若シモ急
シテ開墾スレバ十箇年ノモノハ五箇年ニシテ開墾シテ仕舞ウテ著手ノ初メヨ
リ二十五箇年目ニ稅ガ附セラレルト云フ譯ニナリマスカラ、全ク十箇年縮シ
ダトハ言ヒ難ウゴザイマス、是ハ同意イタシマシタ、先キノ十四條第二項ヲ
削リマシタ是ハ自然ノ結果デアリマス、二十條ノ修正ハ是ハ唯登録ノ申請ト
云フコトハ事實ニ於テ必要ガナイト云フコトデ、臺帳ニ登録スルト云フコト
ヲ書イタダケデアリマス、登録トカ云フモノハ申請シナイモノダサウデアリ
マス、私ハ至ツテ不案内デアリマス、ソレカラ附則ニ行キマスト、附則ノ一
號ハ元ノ儘、是ハ四號マデアリマスガ、此二號ト四號ハ同一ノ理由デ削減イ
タシマシタ、同一理由デアルニ依ツテ一緒ニ申上ゲマス、是ハ以前ノ法ニ依
テ土地ノ貸付ヲ受ケテ居ッタ者ハ、是ハ原案ヲ見マスト今度ノ法ハ主トシテ、
ソレヲ期限ヲ短カメルト云フコトデアリマス、是ハ先ヅ既得權ミタヤウナモ
ノデ、純粹ナル既得權ト言ヒ得ルヤ否ヤハ知リマセヌケレドモ、既ニ約束ノ
既得權ミタヤウナモノニナツテ居ル、法ヲ變ヘルカラト言ツテ、アトカラ追
シカケテ年期ヲ縮メルト云フコトハ穩カデアルマイト云フノデ、兩方トモ是ハ
削リマシタ、政府モ同意ヲナサレマシタ、第三項ノ修正ハ意味ニ於テハ違ヒ
マセヌガ、文字ガ穩カデナイ、「本法特定地ト看做ス」トアリマスケレドモ、是
ハ特定デナイモノヲ特定地ト看做スト云フトカシイカラ何カ書キ様ガアル
マイカト云フコトデ「特定地ニ關スル規定ヲ適用ス」トス様ニ變ヘマシタノ
デアリマス、此報告ヲ終リマスニ付キマシテ委員ノ多數、若クハ委員一同トモ
申シ得ラレマスカ知レマセヌガ、少クトモ多數デアリマス、委員多數ノ本案

ニ對スル觀念ニ付イテ一言申上グマス、目下北海道ノ弊害矯正ノ必要ナルコトハ是ハ多ク天下ノ認ム所デアラウト思ヒマス、新長官ガ銳意熱心ニ之ニ從事サルルノハ大ニ多トル所デアリマス、又私ドモ甚ダ喜ブ所デアリマス、併ナガラ此改正案ハ果シテ幾バクノ效ヲ奏スベキカト云フコトハ、豫メ何トモ申兼ネルヤウナ心地イタシマス、畢竟法律ト云フモノハ死物デアル、人間ハ活物デアル死物ノミニ依頼シテ大ニ改良ヲ圖ル如キハ抑、餘リ當ヲ得タルコトデアルマイト思ヒマスノデアリマス、サリナガラ此際面目ヲ改メ人心ヲ一洗スルニハ法律ノ改正ハ又決シテ必要ナイトハ思ヒマセヌ、謂ハユル人心ヲモ亦必要ナシトハ認メマセヌ、是ガ一ツノ觀念デアリマス、又本案ノ新財源ヲ得ルト云フコトニ付イテハ是ハ我國家ノ今日ノ財政ノ困難ナル折柄デアリマスニ依テ多少ニ拘ラズ其途アリト聞ケバ勿論賛成スルノハ當リ前ノコトデ、當然ノコトデアリマス、サリナガラ餘リ又財源ヲ求ムルニ急ニシテ、該ニ謂ハユル鹿ヲ逐フ者ハ山ヲ見ズト云フヤウナコトニナリマシテハ、拓殖ノ事業ヲ阻害スルニ至ルヤモ測ラレナイ、ソレ故ニ我ニ委員ハ本案ヲ議スルニ當リマシテ此邊ヲ斟酌イタシマシテ、餘リ山ヲ見ナイヤウナコトヲシナイダケノ注意ヲ致シタ積リデアリマス、又此案ノ改正モ時ニ取ッテ必要ノコトデアラウト云フ觀念ヲ持チマシタ、是ガ第二ノ觀念デアリマス、故ニ協議事項ニ於キマシテモ本案ノ修正ニ於キマシテモ此位ノ制限ヲ立テタナラバ、適當デアルト信ジマシテ、即チ此案ヲ修正可決イタシマシタ次第デアリマス、ドウカ諸君ニ於キマシテ此委員等ノ考ヘマシタ所ヲ、ドウゾ能ク御参考クダナッテ、ドウカ本案ノ可決セラレムコトヲ偏ニ希望シマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發言モ無イト認メマスカラ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○子爵曾我祐準君 直ニ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○田中芳男君 贊成

〔其他〕贊成「ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ本案ノ第二讀會ヲ直ニ開ク說ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲタマス、特別委員會ノ報告ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス、是デ第二讀會ハ終リマシタ

○子爵曾我祐準君 直ニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ

○子爵大田原一清君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開イテ御異存アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、全部御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○侯爵黒田長成君 此際動議ヲ提出イタシマス、ソレハ一昨十七日配付ノ公證人法案ハ條數モ多シ且ツ會期切迫ノ際デアリマスカラ、唯今ヨリ議事日程ヲ變更シテ、此公證人法案ノ第一讀會ヲ開カレテ、速ニ委員付託ニナラムコトヲ希望イタシマス、茲ニ日程變更ノ動議ヲ提出イタシマス

○伯爵廣澤金次郎君 贊成

○伯爵川村鐵太郎君 贊成

○子爵堀田正義君 贊成

〔其他〕贊成「ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 黒田侯爵ノ議事日程追加ノ動議ニ對シテハ御異存ゴザイマセヌカ

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス

○議長（公爵徳川家達君） 是ヨリ公證人法案第一讀會ヲ開キマス

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

公證人法案

明治四十一年三月十七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 杉田 定一

公證人法

第一章 總則

〔小字ハ修正、
ハ削除ノ符號〕

第一條 公證人ハ當事者其ノ他ノ關係人ノ囑託ニ因リ法律行爲其ノ他私權

ニ關スル事實ニ付公正證書ヲ作成シ及私署證書ニ認證ヲ與フルノ權限ヲ

有ス

第二條 公證人ノ作成シタル文書ハ本法及他ノ法律ノ定ムル要件ヲ具備ス

ルニ非サレハ公正ノ效力ヲ有セス

第三條 公證人ハ正當ノ理由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第四條 公證人ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ取扱ヒタル事件

ヲ漏泄スルコトヲ得ス但シ囑託人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 公證人ハ他ノ公務ヲ兼ネ、商業ヲ營ミ又ハ商事會社若ハ營利ヲ目
的のトル社團法人ノ代表者若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ス但シ司法大臣ノ
許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 公證人其ノ職務ノ執行ニ付囑託人其ノ他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルト
キハ其ノ損害カ公證人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ
限り之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第七條 公證人ハ囑託人ヨリ手數料、日當及旅費ヲ受ク

公證人ハ前項ニ記載シタルモノヲ除クノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ其ノ
取扱ヒタル事件ニ關シテ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

手數料、日當及旅費ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 區裁判所ノ管轄區域内ニ公證人ナキ場合又ハ公證人其ノ職務ヲ行
フコト能ハサル場合ニ於テハ司法大臣ハ其ノ區裁判所ヲシテ管轄區域内

ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ公證人ノ事務ヲ
取扱ハシムルコトヲ得

第九條 本法及他ノ法令中公證人ノ職務ニ關スル規定ハ公證人ノ事務ヲ取
扱フ判事又ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス但シ第七條ニ依ル手數料、日當及

旅費ハ國庫ノ收入トス

第二章 任免及所屬

第十條 公證人ハ地方裁判所ノ所屬トス
各地方裁判所所屬公證人ノ員數ハ區裁判所ノ管轄區域毎ニ司法大臣之ヲ
定ム

第十一條 公證人ハ司法大臣之ヲ任シ及其ノ屬スヘキ地方裁判所ヲ指定ス

第十二條 左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ公證人ニ任セラルルコトヲ得
ス

一 帝國臣民ニシテ成年以上ノ男子タルコト

二 一定ノ試験ニ合格シタル後六月以上公證人見習トシテ實地修習ヲ爲
シタルコト

試験及實地修習ニ關スル規程ハ司法大臣之ヲ定ム

第十三條 判事、檢事又ハ辯護士タルノ資格ヲ有スル者ハ試験及實地修習
ヲ經スシテ公證人ニ任セラルルコトヲ得ス

第十四條 左ニ掲タル者ハ公證人ニ任セラルルコトヲ得ス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年以下ノ禁錮ニ處セラレタル
者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受タルコトナキニ至リタル
トキハ此ノ限ニ在ラス

二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

三 禁治產者及準禁治產者

四 懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除

名セラレタル者ニシテ免官、免職又ハ除名後二年ヲ經過セサル者

第十五條 司法大臣ハ左ノ場合ニ於テ公證人ヲ免スルコトヲ得
一 公證人免職ヲ願出テタルトキ

二 公證人期間内ニ身元保證金又ハ其ノ補充額ヲ納メサルトキ

三 公證人身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至
リタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ所屬地方裁判所ヲ管轄スル控訴院ニ於ケル懲
戒委員會ノ議決ヲ經ヘシ

第十六條 公證人第十四條第一號乃至第三號ニ該當スルニ至リタルトキハ
當然其ノ職ヲ失フ

第三章 職務執行ニ關スル通則

第十七條 公證人ノ職務執行ノ區域ハ其所屬地方裁判所ノ管轄區域ニ依ル
第十八條 公證人ハ司法大臣ノ指定シタル地ニ其ノ役場ヲ設クヘシ

公證人ハ役場ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス但シ事件ノ性質カ之ヲ許
ササル場合又ハ法令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公證人ハ其ノ役場内ニ住居スヘシ但シ司法大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此
ノ限ニ在ラス

第十九條 公證人ハ任命ノ辭令書ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ所屬地方
裁判所ニ身元保證金ヲ納ムヘシ

身元保證金ノ額ハ土地ノ情況ニ從ヒ三百圓以上千圓以下ノ範圍内ニ於テ
司法大臣之ヲ定ム

身元保證金ノ額ニ不足ヲ生シ補充ノ命令ヲ受ケタルトキハ其ノ命令ヲ受
ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ不足額ヲ補充スヘシ

公證入身元保證金ヲ納メサル間ハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十條 身元保證金ヲ還付スヘキ場合ニ於テハ其ノ身元保證金ノ上ニ
權利ヲ有スル者ニ對シ六月ヲ下ラサル期間内ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘ
シ

身元保證金ハ前項ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ還付セス

身元保證金ハ他ノ公課及債權ニ先チテ之ヲ第一項ノ公告費用ニ充ツ

第二十一條 公證人ハ其ノ職印ノ印鑑ニ氏名ヲ自署シ之ヲ所屬地方裁判所
ニ差出スヘシ

公證人前項ノ印鑑ヲ差出ササル間ハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十二條 公證人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

一 嘐託人、其ノ代理人又ハ囑託セラレタル事項ニ付利害ノ關係ヲ有ス

ル者ノ配偶者、四親等内ノ親族又ハ同居ノ戸主若ハ家族タルトキ親
族關係カ止ミタル後亦同シ

二 嘐託人又ハ其ノ代理人ノ法定代理人又ハ保佐人タルトキ

三 嘐託セラレタル事項ニ付利害ノ關係ヲ有スルトキ

四 嘐託セラレタル事項ニ付代理人若ハ輔佐人タルトキ又ハ代理人若ハ
輔佐人タリシトキ

第二十三條 公證人職務上署名スルトキハ其ノ職名、所屬及役場所在地ヲ
記載スヘシ

第二十四條 公證人ハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケテ筆生ヲ置キ執務ノ
補助ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ認可ハ必要ナル場合ニ於テハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 公證人ノ作成シタル證書ノ原本、其ノ附屬書類及法令ニ依リ
公證人ノ調製シタル帳簿ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合ヲ除クノ外之ヲ役
場外ニ持出スコトヲ得ス但シ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタ
ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ書類ハ保存及廢毀ニ關スル規程ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章 證書ノ作成

第二十六條 公證人ハ法令ニ違反シタル事項、無効ノ法律行為及無能力ニ
因リテ取消スコトヲ得ヘキ法律行為ニ付證書ヲ作成スルコトヲ得ス

第二十七條 公證人ハ日本語ヲ用ウル證書ニ非サレハ之ヲ作成スルコトヲ
得ス

第二十八條 公證人證書ヲ作成スルニハ囑託人ノ氏名ヲ知リ且之ト面識ア
ルコトヲ要ス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス又バ之ト面識ナキトキハ其ノ本籍地若ハ寄
留地ノ市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書ヲ提出セシメ。其ノ人違ナキ
面識アル證人二人ニ依リコトヲ證明セシムルコトヲ要ス但シ囑託人外國人ナルトキハ警察官吏又
ハ帝國ニ駐在スル本國領事ノ證明書ヲ以テ印鑑證明書ニ代フルコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テ公證人法律行為ニ非サル事實ニ付證書ヲ作成スルト
キハ前項ノ手續ハ證書ヲ作成シタル後三日内ニ證書ノ作成ニ關スル規定
ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ證書ハ急迫ナル場合ニ非サルカ爲其ノ效力

ヲ妨ケラルコトナシ

第三十四條第三項ノ規定ハ第二項ノ證人ニ之ヲ準用ス

第二十九條囑託人日本語ヲ解セサル場合又ハ聾者若ハ啞者其ノ他言語ヲ

發スルコト能ハサル者ニシテ文字ヲ解セサル場合ニ於テ公證人證書ヲ作

成スルニハ通事ヲ立會ハシムルコトヲ要ス

第三十條囑託人盲者ナル場合又ハ文字ヲ解セサル場合ニ於テ公證人證書ヲ作成スルニハ立會ハシムルコトヲ要ス

立會ハシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ囑託人立會人ヲ立會ハシムルコトヲ要ス

第三十條代理人ニ依リ囑託セラレタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其

ノ代理人ニ之ヲ適用ス

第三十一條代理人ニ依リ囑託セラレタル場合ニ於テ公證人證書ヲ作成ス

ルニハ其ノ代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ權限ヲ證明セシムルコトヲ要ス

前項ノ證書カ認證ヲ受ケサル私署證書ナルトキハ其ノ證書ノ外其ノ署名者ノ本籍地又ハ居留地ノ市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書ヲ提出セシムル證書ノ真正ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス但シ其ノ署名者外國人ナルトキハ第二十八條第二項但書ノ規定ヲ準用ス

證書ノ作成ニ關スル規定ニ依リ代理又ハ其ノ方式ノ欠缺ヲ追完シタルトキハ證書ハ其ノ欠缺アリタルカ爲效力ヲ妨ケラルコトナシ

第三十二條第三者ノ許可又ハ同意ヲ要スヘキ法律行爲ニ付公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ許可又ハ同意アリタルコトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ許可又ハ同意ヲ證明セシムルコトヲ要ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條公證人證書ヲ作成スルニハ立會ハシムルコトヲ要ス

第三十四條通事及立會人ハ囑託人又ハ其ノ代理人之ヲ選定スルコトヲ要ス

左ニ掲タル者ハ立會人タルコトヲ得ス

一未成年者

二第十四條ニ掲ケタル者
三自ラ署名スルコト能ハサル者

四囑託事項ニ付利害ノ關係ヲ有スル者
五囑託事項ニ付代理人若ハ輔佐人タル者又ハ代理人若ハ輔佐人タリシノ戸主若ハ家族、法定代理人、保佐人、雇人又ハ同居人

六公證人又ハ囑託人若ハ其ノ代理人ノ配偶者、四親等内ノ親族、同居人ノ戸主若ハ家族、法定代理人、保佐人、雇人又ハ同居人

七公證人ノ筆生

第三十五條公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ聽取シタル陳述、其ノ目録シタル狀況其ノ他自ラ實驗シタル事實ヲ錄取シ且其ノ實驗ノ方法ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條公證人ノ作成スル證書ニハ其ノ本旨ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一證書ノ番號
二囑託人ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
三代理人ニ依リ囑託セラレタルトキハ其ノ旨及其ノ代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ權限ヲ證明セシメタルコト並其ノ代理人ノ住所、職業、氏名及年齡

四囑託人又ハ其ノ代理人ノ氏名ヲ知リ且之ト面識アルトキハ其ノ旨及其ノ代理人ニ依リ囑託セラレタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ第三者ノ許可又ハ同意アリタルコトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ許可又ハ同意ヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ第三者ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

六市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書又ハ警察官吏若ハ領事ノ證明書ヲ提出セシメ人違ナキコト又ハ證書ノ真正ナルコトヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由

七八氏名ヲ知リ且面識アル證人ニ依リ人違ナキコトヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ證人ノ住所、職業、氏名及年齡
八九通事○立會人ハシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ通事○立會人ノ住

所、職業、氏名及年齢

立會人ノ住所、職業、氏名及年齡

作成ノ年月日及場所

第三十七條 公證人證書ヲ作成スルニハ普通平易ノ語ヲ用ヰ字畫ヲ明瞭ナラシムヘシ

接續スヘキ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續セシムヘシ

數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ウヘシ

第三十八條 證書ノ文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス

證書ニ文字ヲ插入スルトキハ其ノ文字及其ノ箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載シ公證人及立會人之ニ捺印スルコトヲ要ス

證書ノ文字ヲ削除スルトキハ其ノ文字ハ尙明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存シ削

除シタル字數及箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載シ公證人及立會人之ノ代理人ニ捺印スルコトヲ要ス

前三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル訂正ハ其ノ效力ヲ有セス

第三十九條 公證人ハ其ノ作成シタル證書ヲ列席者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セ

シメ囑託人又ハ其ノ代理人ノ承認ヲ得且其ノ旨ヲ證書ニ記載スルコトヲ要ス

通事ヲ立會ハシメタル場合ニ於テハ前項ノ外通事ヲシテ證書ノ趣旨ヲ通

譯セシメ且其ノ旨ヲ證書ニ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ記載ヲ爲シタルトキハ公證人及列席者各自證書ニ署名捺印スル

コトヲ要ス
列席者ニシテ署名スルコト能ハサル者アルトキハ其ノ旨ヲ證書ニ記載シ

公證人及立會人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

證書數葉ニ涉ルトキハ公證人及立會人ハ每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

證書ハ公證人^(嘱託人若ハ其ノ代理人)又ハ立會人ノ契印ニ依リ其ノ全部ノ連綴明白ナル場合ニ

於テハ前項ニ違反シタルカ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第四十條 公證人ノ作成スル證書ニ他ノ書面ヲ引用シ且之ヲ其ノ證書ニ

添附スルトキハ公證人^(嘱託人又ハ其ノ代理人)及立會人其ノ證書ト添附書面トノ綴目ニ契印ヲ

爲スコトヲ要ス

第三條ニ依ル添附書面ハ公證人ノ作成シタル證書ノ一部ト看做ス

前二項ニ依ル添附書面ハ公證人ノ作成シタル證書ノ一部ト看做ス

第四十一條 代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書、市區町村長、警察官吏又ハ領事ノ證明書、第三者ノ許可又ハ同意ヲ證スヘキ證書其ノ他ノ附屬書類ハ公

證人ノ作成シタル證書ニ之ヲ連綴スヘシ

公證人^(嘱託人又ハ其ノ代理人)及立會人ハ證書ト其ノ附屬書類トノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

第四十二條 證書ノ原本滅失シタルトキハ公證人ハ既ニ交付シタル證書ノ正本又ハ謄本ヲ徵シ所屬地方裁判所長ノ指定シタル官吏ノ立會ヲ以テ原本ノ全文ヲ謄寫シ滅失シタル證書ニ代ヘテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

公證人滅失シタル證書ノ原本ノ全文ニ付前項ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ有用ノ部分及證書ノ法式ニ關スル記載ノミニ付其ノ手續ヲ爲スコトヲ得

前項ノ證書ニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケ滅失シタル證書二代ヘテ之ヲ保存スル旨及其ノ前二項ノ證書ニハ第一項又ハ第二項ニ依リ謄寫シタル證書ナルコト及其認可ノ年月日ヲ記載シ公證人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十三條 公證人ハ囑託人ヲシテ印紙稅法ニ依リ證書ノ原本ニ印紙ヲ貼用セシムヘシ

ノ謄寫ノ年月日ヲ記載シ公證人及立會官吏之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十四條 囑託人、其ノ承繼人又ハ證書ノ趣旨ニ付法律上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明シタル者ハ證書ノ原本ノ閲覽セシムヲ請求スルコトヲ得

第二十八條第一項及第二項^(及第五項)、第三十一條第一項及第二項ノ規定ハ前項ニ依リ公證人證書ノ原本ヲ閲覽セシムヘキ場合ニ之ヲ準用ス

公證人囑託人ノ承繼人ニ證書ノ原本ヲ閲覽セシムヘキ場合ニ於テハ承繼人タルコトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ承繼人タルコトヲ證明セシムヘシ

第三十一條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ提出セシムヘキ證書ニ之ヲ準用ス

檢事ハ何時ニテモ證書ノ原本ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 公證人ハ證書原簿ヲ調製シ記入前其ノ所屬地方裁判所長ノ契印ヲ請フヘシ

地方裁判所長ハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ每葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ

第四十六條 證書原簿ニハ證書ノ作成毎ニ進行ノ順序ヲ逐ヒ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一 證書ノ番號及種類

二 嘱託人ノ住所及氏名若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

三 作成ノ年月日

第三十七條及第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ證書ノ作成ヲ記入スヘキ帳簿ニ關シ法令ニ別段ノ定アル

場合ニ之ヲ適用セス

第四十七條 嘱託人又ハ其ノ承繼人ハ證書ノ正本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條第一項及第二項及第五項、一、第三十條、第三十一條第一項及第二項並第

四十四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ニ依リ公證人證書ノ正本ヲ作成スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 證書ノ正本ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 證書ノ全文

二 正本タルコト

三 交付ヲ請求シタル者ノ氏名

四 作成ノ年月日及場所

前項ノ規定ニ違反スルモノハ證書ノ正本タルノ效力ヲ有セス

第四十九條 數事件ヲ列記スル證書又ハ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ニ付テハ有用ノ部分及證書ノ方式ニ關スル記載ヲ抄錄シテ其ノ正本ヲ作成スルコトヲ得

前項ノ正本ニハ抄錄正本タルコトヲ記載シ前條第一項第二號ノ記載ニ代

フルコトヲ要ス

第五十條 公證人證書ノ正本ヲ交付シタルトキハ其ノ證書ノ末尾ニ嘱託

人又ハ其ノ承繼人何某ノ爲正本ヲ交付シタル旨及其ノ交付ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第五十一條 嘱託人、其ノ承繼人又ハ證書ノ趣旨ニ付法律上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明シタル者ハ證書又ハ其ノ附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條第一項、及第五項、一、第三十條、第三十一條第一項及第二項並第

四十四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ニ依リ公證人證書ノ謄本ヲ作成スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 證書ノ謄本ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人之ニ署名捺印スヘシ

一 證書ノ全文

二 謄本タルコト

三 作成ノ年月日及場所

第五十三條 證書ノ謄本ハ其ノ一部ニ付之ヲ作成スルコトヲ得

前項ノ謄本ニハ抄錄謄本タルコトヲ記載スヘシ

第五十四條 前二條ノ規定ハ證書ノ附屬書類ノ謄本ヲ請求スル者ハ之ニ記載スヘキ事項ヲ自ラ記載シ公證人ノ署名捺印ノミヲ請求スルコトヲ得

公證人前項ノ謄本ニ署名捺印シタルトキハ其ノ謄本ハ公證人自ラ之ヲ作成シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第五十六條 證書ノ正本若ハ謄本又ハ其ノ附屬書類ノ謄本數葉ニ涉ルトキハ公證人ハ毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

第五十七條 第十八條第二項ノ規定ハ證書ノ正本及謄本並其ノ附屬書類ノ謄本ノ作成ニ之ヲ準用ス

第三十七條及第三十八條ノ規定ハ證書ノ正本及謄本並其ノ附屬書類ノ謄本ノ作成ニ之ヲ準用ス

第五十八條 公證人私署證書ニ認證ヲ與フルニハ當事者其ノ面前ニ於テ證書ニ署名若ハ捺印シタルトキ又ハ證書ノ署名若ハ捺印ヲ自認シタルトキ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十九條 乃至第二十一條及第三十三條ノ規定ハ公證人拒絶證書ヲ作成スル場合ニ之ヲ適用セス

第五章 認證

私署證書ノ謄本ニ認證ヲ與フルニハ證書ト對照シ其ノ符合スルコトヲ認メタルトキ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

私署證書ニ文字ノ插入、削除、改竄、欄外ノ記載其ノ他ノ訂正アルトキ又ハ破損若ハ外見上著ク疑フヘキ點アルトキハ其ノ狀況ヲ認證文ニ記載スルコトヲ要ス

第五十九條 認證ヲ與フヘキ證書ニハ登簿番號、認證ノ年月日及其ノ場所ヲ記載シ公證人及立會人之署名捺印シ且其ノ證書ト認證簿トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第六十條 第二十六條乃至第三十四條、第三十七條、第三十八條並第三十九條第五項及第六項ノ規定ハ私署證書ニ認證ヲ與フル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 公證人ハ認證簿ヲ調製スヘシ

第四十五條ノ規定ハ認證簿ノ調製ニ之ヲ準用ス

第六十二條 認證簿ニハ認證ヲ與フル毎ニ進行ノ順序ヲ逐ヒ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一 登簿番號

二 嘱託人ノ住所及氏名若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

三 證書ノ種類及署名捺印者

四 認證ノ方法

五 立會人ノ住所及氏名

六 認證ノ年月日

第三十七條及第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六章 代理兼務及受繼

第六十三條 公證人疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ同一區裁判所ノ管轄區域。又ハ之ニ鄰接スル區裁判所ノ管轄區域内ノ公證人ニ代理ヲ嘱託スルコトヲコトヲ得

公證人前項ニ依リ代理ヲ嘱託シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所屬地方裁判所長ニ届出ツヘシ其ノ代理ヲ解キタルトキ亦同シ

第六十四條 公證人前條第一項ニ依リ代理ヲ嘱託セス又ハ之ヲ嘱託スルコト能ハサルトキハ所屬地方裁判所長ハ同一區裁判所ノ管轄區域。又ハ之ニ鄰接スル區裁判所ノ管轄區域内ノ公證人ニ代理ヲ命スルコトヲ得

公證人前項ニ依リ代理ヲ嘱託シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所屬地方裁判所長ニ届出ツヘシ其ノ代理ヲ解キタルトキ亦同シ

第六十五條 公證人ノ代理者職務上署名スルトキハ代理セラルル公證人ノ職氏名、所屬、役場所在地及其ノ代理者タルコトヲ記載スヘシ

第六十六條 公證人ノ死亡、免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テ所屬地方裁判所長必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル官吏ヲシテ遲滯ナク役場ノ書類ニ封印ヲ爲サシムヘシ

第六十七條 公證人ノ死亡、免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テ直ニ後任者ノ任命セラレサルトキハ所屬地方裁判所長ハ同一區裁判所ノ管轄區域内ノ公證人ニ兼務ヲ命スルコトヲ得

後任者其ノ職務ヲ行フコトヲ得ルニ至リタルトキハ地方裁判所長ハ前項ノ兼務ヲ解クヘシ

第六十八條 公證人ノ免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テハ後任者又ハ兼務者ハ前任者ト立會ヒ遲滯ナク書類ノ授受ヲ爲スヘシ

死亡其ノ他ノ事由ニ因リ書類ノ授受ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ後任者又ハ兼務者ハ所屬地方裁判所長ノ指定シタル官吏ノ立會ヲ以テ書類ヲ受取ルヘシ

第六十九條 ニ依ル書類ノ封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼務者ハ所屬地方裁判所長ノ指定シタル官吏ノ立會ヲ以テ封印ヲ解キ書類ヲ受取ルヘシ

第七十條 兼務者職務上署名スルトキハ兼務者タルコトヲ記載スヘシ

前任者又ハ兼務者ノ作成シタル證書ニ依リ後任者カ其ノ正本又ハ謄本ヲ作成スル場合ニ於テ署名スルトキハ後任者タルコトヲ記載スヘシ

第七十一條 公證人ノ死亡、免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テ定員ノ改正ニ因リ後任者ヲ要セサルトキハ司法大臣ハ同一區裁判所ノ管轄區域内ノ公

證人ニ書類ノ引繼ヲ命スヘシ

第六十八條及前條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ書類ノ引繼ヲ命セラレタル
公證人ニ之ヲ準用ス

第七十二條 第六十六條、第六十七條、第六十八條第三項及第七十條第一
項ノ規定ハ公證人ノ停職ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條 第六十八條及第六十九條ノ規定ハ區裁判所カ第八條ニ依リ公
證人ノ職務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

兼務者前項ニ依リ其ノ職務ヲ行フノ役場ハ停職者ノ役場トス

第七十條 第六十八條及第六十九條ノ規定ハ區裁判所カ第八條ニ依リ公
證人ノ職務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 監督及懲戒

第七十四條 公證人ハ所屬地方裁判所長ノ監督ヲ受ク

地方裁判所長ハ區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ヲシテ其ノ管轄區域
内ノ公證人ニ對スル監督事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七十五條 司法大臣及控訴院長ハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ニ準シ公
證人ヲ監督ス

第七十六條 前二條ノ監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

一 公證人ノ不適當ニ取扱ヒタル職務ニ付其ノ注意ヲ促シ及適當ニ其ノ
職務ヲ取扱フヘキコトヲ之ニ訓令スルコト

二 職務ノ内外ヲ問ハス公證人ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告ス
ルコト但シ諭告ヲ爲ス前其ノ公證人ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシ
ムヘシ

第七十七條 監督官ハ公證人ノ保存スル書類ヲ檢閱シ又ハ其ノ指定シタル
官吏ヲシテ之ヲ檢閱セシムルコトヲ得

第七十八條 嘴託人又ハ利害關係人ハ公證人ノ事務取扱ニ對シ抗告ヲ爲ス
コトヲ得

前項ノ抗告ハ本章ニ掲ケタル監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第七十九條 公證人職務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ
行爲アリタルトキハ懲戒ニ付ス

第八十條 懲戒ハ左ノ五種トス

一 講責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以下ノ停職

四 轉屬

五 免職

第八十一條 過料、停職、轉屬及免職ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ司法大臣之
ヲ行フ

譴責ハ司法大臣之ヲ行フ

第八十二條 各控訴院ニ懲戒委員會ヲ設ク

懲戒委員會ハ之ヲ設置シタル控訴院ノ管轄區域内ノ地方裁判所所屬ノ公
證人ニ對スル懲戒ヲ議決ス

懲戒委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 公證人ノ懲戒手續ト刑事裁判手續トノ關係及其ノ職務停止ニ
付テハ判事懲戒法ノ規定ヲ準用ス

公證人ノ停職ニ關スル規定ハ其ノ職務停止ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條 過料ヲ完納セサルトキハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

前項ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

公證人ノ納メタル身元保證金ハ第二十條第三項ノ場合ヲ除クノ外他ノ公
課及債權ニ先チテ之ヲ過料ニ充ツ

附 則

第八十五條 本法ニ於テ市區町村長ト稱スルハ之ヲ置カサル地ニ在リテハ
其ノ職務ヲ行フ吏員ヲ謂フ

第八十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十七條 公證人規則ハ之ヲ廢止ス

第八十八條 本法施行ノ際公證人タル者ハ別ニ任命ノ辭令書ヲ用ヰ本法
ニ依ル

ニ依ル公證人トシ其ノ役場所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ所屬トス

第八十九條 公證人規則ニ依リ公證人ノ設タル役場ハ本法ニ依ル役場トス
ル身元保證金トス

第九十條 公證人規則ニ依リ差入レタル身元保證金ハ本法ニ依リ納メタ
之ヲ完結ス

第九十二條 本法施行前ニ著手シタル公證人規則第五十八條、第五十九條
任者ハ本法ニ依ル代理者又ハ兼務者トス

第九十三條 本法施行前ニ著手シタル公證人規則第五十八條、第五十九條
之ヲ完結ス

及第六十一條ノ手續ハ本法ニ依リ之ヲ完結ス

第九十四條 本法施行前ニ公證人ノ事務取扱ニ對シテ爲シタル抗告ハ公證人規則ニ依リ之ヲ完結ス

スルモノハ本法ニ依リ之ヲ懲戒ニ付ス但シ本法施行前ニ開始シタル懲罰人規則ニ依リ之ヲ完結ス

第九十五條 本法施行前ニ爲シタル公證人ノ行爲ニシテ公證人規則ニ違反手續ハ公證人規則ニ依リ之ヲ完結ス

〔政府委員河村讓三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(河村讓三郎君) 現行ノ公證人規則ハ大分以前ノ制定ニ係リマシテ、其後實施セラレマシタル民法商法等ノ規定ト調和ヲ缺イテ居リマス、又

公證人ノ職務トシテ規定セラレタル範圍ガ狹隘ニ失シマシテ、今日進歩シタル社會ノ需要ニ應ズルコトガ出來マセヌ、就中、公證人ノ職務執行ヲ正確ニ致シ、其風紀ヲ嚴正ニシテ以テ公正證書ノ信憑力ヲ厚ウスルノ點ニ於テ不完全タルコトヲ免レマセヌ、是等ノ缺點ヲ補フ爲ニ新ニ立法スルノ必要ヲ認メ

マシテ本案ヲ提出イタシタ次第デゴザイマス、衆議院ニ於キマシテ多少修正ヲ加ヘラレマシタガ、何レモ枝葉ノ點ニ過ギマセヌ、又相當ノ理由アリト認メマシテ、政府ニ於キマシテモ之ニ同意ヲ致シマシタ、會期切迫ノ際、甚ダ恐縮デゴザイマスガ、速ニ御審議ヲ願ヒタイト思ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質問モ無イト認ヌマスカラ特別委員ノ選舉ニ移リマス、此特別委員モ議長指名デ御異存ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認ヌマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六、衆議院議員選舉法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

衆議院議員選舉法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 篠浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

政府ノ請負ヲ爲ス者又ハ主トシテ政府ノ請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八ニ移リマス、日本水產銀行法案、衆議院提出、第一讀會

日本水產銀行法案

右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 篠浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

日本水產銀行法

第一章 總 則

第一條 日本水產銀行ハ水產業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ本店ヲ東京市ニ置ク

第二條 日本水產銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケテ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本水產銀行ノ各株式ノ金額ヲ五十圓トス

第四條 日本水產銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ五十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重 戰

第五條 日本水產銀行ニ總裁一人理事四人監查役二人ヲ置ク

總裁ハ日本水產銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本水產銀行ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ日本水產銀行ノ業務ヲ監査ス

第六條 總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シ其ノ任期ヲ三箇年トス

理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ其ノ任期ヲ三箇年トス

監査役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ其

ノ任期ヲ二箇年トス

第三章 營業

第七條 日本水產銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付

定期償還ノ方法ニ依リ不動産又ハ船舶ヲ抵當トスル貸付

漁業權ヲ抵當トスル貸付

國債證券、地方債證券、社債券又ハ株券ヲ質トスル貸付

水產業ニ關スル會社ノ社債券ノ應募又ハ引受

爲替、荷爲替及水產物ヲ擔保トスル貸付

預り金及保護預リ

手形ノ割引

水產業ニ關スル信託業務

法律ニ依リ設定シタル水產業ニ關スル財團ヲ抵當トスル貸付

前項第八號ノ手形ハ割引依頼人ヨリ水產物又ハ水產業ニ關スル會社ノ株券、債券ヲ擔保ニ供スルモノニ限ル

第八條 日本水產銀行ハ市町村ニ對シ無擔保ニテ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スコトヲ得

法律ニ依リ設立シタル漁業組合、水產組合又ハ產業組合ニハ年賦若ハ定期ノ償還方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

水產業者組合ヲ設ケ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

第九條 日本水產銀行ハ營業上餘裕アルトキハ國債證券、地方債證券又ハ社債券ヲ買入レ又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ確實ナル銀行ニ預金ヲ爲スコトヲ得

第十條 日本水產銀行ハ日本銀行、日本勸業銀行及日本興業銀行ノ代理店トナルコトヲ得

第十一條 日本水產銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 日本水產銀行ハ第七條第一項第一號乃至第四號、第十號及第八條ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキハ償還期限前ト雖其ノ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第四章 準備金

第十三條 日本水產銀行ハ毎營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益百分ノ

第五章 政府ノ監督及補助

二以上ヲ積立ッヘシ

第十四條 政府ハ日本水產銀行ノ業務ヲ監督ス

第十五條 日本水產銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 日本水產銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置シ若ハ改廢セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 日本水產銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本水產銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第十九條 主務大臣ハ日本水產銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十條 日本水產銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十一條 政府ハ日本水產銀行管理官ヲ置キ主務大臣ノ指揮ヲ受ケ日本水產銀行ノ業務ヲ管理セシム

第二十二條 日本水產銀行管理官ハ何時ニテモ日本水產銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本水產銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 政府ハ日本水產銀行拂込資本金ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ補助スヘシ

第二十四條 前條ニ依ル政府ノ補助年限ハ其ノ創立初季ヨリ十箇年トス 第六章 罰則

第二十五條 日本水產銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 第十一條ノ規定ニ反シ本法ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
二 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

附則

第二十六條 日本水產銀行設立發起人ハ設立委員十五名ヲ選舉シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十七條 設立委員ハ定款ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第二十八條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二十九條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本水產銀行總裁ニ引渡スヘシ

第三十條 日本水產銀行ニ關シ本法ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十二移リマス、漁業法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 箕浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

漁業法中左ノ通改正ス

第七條 漁業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第百七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ相續、讓渡、共有、貸付、滯納處分、強制執行及抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ登録ハ登記ニ代ルモノトス登録ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

地先水面專用ノ漁業權ヲ處分スルハ行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ前條第一項ノ規定ニ依ル漁業權取消ノ場合ハ此ノ限り在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落人ハ漁業權取消ノ登録アリタル時ニ於テ漁業權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第九條ノ三 前條ノ規定ハ漁業權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

○議長(公爵徳川家達君) 此特別委員ハ第八ノ日本水產銀行法案ト同一委員デ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十二、市制中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

市制中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 箕浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

市制中左ノ通改正ス

第九十三條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖モ

市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若クハ占用シ又ハ營業所ヲ定メ
テ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其土地家屋物件營業
若クハ其收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ
其法人タルトキモ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此限ニ在ラス
第九十四條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ若クハ占有スル土地家屋物
件若クハ其收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若クハ其收入ニ對
シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但數市町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業
ヲ爲シ且其營業又ハ其收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關
係市町村ニ於テ附加稅ヲ賦課スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第九十五條 住所滯在數市町村ニ平分シ其一部ニノミ賦課ス可シ但土地家屋物件
ハ其收入ヲ關係市町村ニ平分シ其一部ニノミ賦課ス可シ但土地家屋物件
又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此限ニ在ラス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十四、町村制中改正法律案、衆議院提出、第一讀會
右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 箕浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

町村制中左ノ通改正ス

第九十三條 町村内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖
モ町村内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若クハ占有シ又ハ營業所ヲ
定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其土地家屋物
件營業若クハ其收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義
務ヲ負フ其法人タルトキモ亦同シ但國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此限ニ
在ラス

第九十四條 納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ若クハ占有スル土地家屋
物件若クハ其收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若クハ其收入
ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但數市町村ニ涉リ營業ヲ爲シ

其營業又ハ其收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係市町村
ニ於テ附加稅ヲ賦課スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依ル
第九十五條 住所滯在數市町村ニ平分シ其一部ニノミ賦課ス可シ但土地家屋物
キハ其收入ヲ關係市町村ニ平分シ其一部ニノミ賦課ス可シ但土地家屋物
件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此限ニ在ラス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十四ノ特別委員ハ議事日程第十二ノ市
制中改正法律案ノ特別委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十六、明治三十四年法律第三十九號中
改正法律案、衆議院提出、第一讀會

明治三十四年法律第三十九號中改正法律案
右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 箕浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院副議長 箕浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

町村制中左ノ通改正ス

明治三十四年法律第三十九號中左ノ通改正ス
第二條ノ二 永代借地權ノ競賣ニ付テハ本法ニ別段ノ定メアルモノヲ除ク
ノ外民事訴訟法及競賣法中不動產ノ競賣ニ關スル規定ヲ準用ス
第二條ノ三 競賣ノ申立書ニハ永代借地券ヲ添附スヘシ申立人地券ヲ提出
スルコト能ハサルトキハ地方廳ノ認證アル地券ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二條ノ四 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申
立アリタルコトヲ地方廳ニ通知スヘシ
地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ競賣手續中地券ニ移轉ノ記載
ヲ爲スコトヲ得ス

第二條ノ五 民事訴訟法第七百條第一項又ハ競賣法第三十三條第一項ノ場
合ニ於テハ裁判所ハ競落人カ取得シタル永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ地方
廳ニ嘱託スヘシ

前項ノ場合ニ於テ申立人ヨリ提出シタル地券アルトキハ囑託書ニ之ヲ添附スヘシ

第二條ノ六 地方廳ニ於テ前條ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ返還スヘシ

第二條ノ七 地方廳カ第二條ノ五ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ囑託書ニ地券ノ添附ナキトキハ地券名義人ニ對シ地券ノ提出ヲ命スヘシ

地券名義人カ地券ヲ提出シタルトキハ遲滯ナク其ノ地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第二條ノ八 地券名義人カ地券ヲ提出セサルトキハ地方廳ハ競落人ニ對シ更ニ新地券ヲ發給スヘシ

提出セサル地券ハ新地券ノ發給ニ因リテ其效力ヲ失フ

第二條ノ九 前條第一項ノ規定ニ依リ發給スヘキ地券ハ地方廳ノ記錄ニ基キ原地券ノ全文ヲ掲ケテ之ヲ作成シ且競落人ノ氏名、國籍、住所、新地券

發給ノ原因、其ノ日附及地方長官ノ官氏名ヲ記入シ官印ヲ押捺スヘシ
第二條ノ十 地方廳カ第二條ノ八第一項ノ規定ニ依リ新地券ヲ發給スルトキハ其ノ地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第二條ノ十一 地券カ第二條ノ八第二項ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ舊地券名義人ニ通知シ且官報及新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第二條ノ十二 地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載シタルトキハ遲滯ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ニハ地券ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二條ノ十三 管轄登記所ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ消及競賣申立記入ノ抹消ノ登記ヲ爲スヘシ

第二條ノ十四 裁判所ハ第二條ノ六ノ規定ニ依リ地券ノ返還ヲ受ケタルトキ又ハ第二條ノ七第二項及第二條ノ十ノ規定ニ依リ地券ノ送付ヲ受ケタ

ルトキハ遲滯ナク之ヲ競落人ニ交付スヘシ

第二條ノ十五 競落ヲ爲サシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方廳ニ通知スヘシ

第二條ノ十六 永代借地權ノ競賣ニ關スル規定ハ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八ニ移リマス、明治三十年法律第三十九號中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

明治三十年法律第三十九號中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

貴族院議長公爵徳川家達殿 衆議院副議長 箕浦勝人

明治三十年法律第三十九號中左ノ通改正ス

第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

改良地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得其ノ同意者ノ所有スル土地ノ面積及地價カ改良地區内ニ於ケル土地ノ面積及地價ノ三分ノ二以上ニ當ルトキハ第一項ノ許可ヲ申請スルコトヲ得但前項ノ場合ニ於テ特別ノ價值用途アル土地ヲ改良地區ニ編入セラレタル爲異議アル者ハ改良施行許可ノ日ヨリ十五日以内ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願ノ裁決前ニ在リテハ事業ニ着手スルコトヲ得ス

第三項中「前二項」ヲ「第一項又ハ第二項」ニ改ム

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ御諮詢シマスガ、議事日程第十八ノ法案ハ第十六ノ法案ノ特別委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 箕浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

關稅定率輸入稅表中左ノ通改正ス

一一二 醋 酸 同 八、〇〇

一三四ノ二 醋酸石灰 同 ○、四一
一三四ノ三 アセトン 同 一五、一三
附 則

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十ノ關稅定率法輸入稅表中改正法律

案ハ裏ニ議長ガ選定イタシマシタ委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十二ニ移リマス、地租條例中改正法

律案、衆議院提出、第一讀會

地租條例中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長 箕浦勝人

貴族院議長公爵徳川家達殿

地租條例中左ノ通改正ス

第四條第一項第六號「鐵道用地」ヲ「鐵道用地、軌道用地」ニ改ム

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治四十一年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○議長(公爵徳川家達君) 此際、議長ハ諸君ニ一言申上ダウゴザイマスガ、
議事日程第十六ト第十八ト同一委員ト云フコトヲ申シマシテ、ソレデ御異議
ナイト云フコトデ宣告ヲ致シマシタガ、アレハ議長ノ申誤リデアッテ、議事

日程第十八ト議事日程第二十二ノ法案ト同一委員ト云フ意味ニ御了解ヲ願ヒ
タイト思ヒマス、ソレデ御異議ハゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官
長ヲシテ朗讀イタサセマス

〔太田書記官長朗讀〕

満洲ニ於ケル領事裁判ニ關スル法律案特別委員

子爵岡部長職君 三好退藏君 濱田德則君
男爵木梨精一郎君 山川健次郎君 男爵小早川四郎君

室田義文君 穂積八東君 辰巳楨太郎君

感化法中改正法律案特別委員

伯爵徳川達孝君 子爵大久保忠順君 男爵船越衛君

男爵波多野敬直君 男爵眞田幸世君 關清英君

伊澤修二君 鎌田榮吉君 土居通博君

公證人法案特別委員

伯爵廣澤金次郎君 子爵本莊壽巨君 男爵長松篤棐君

馬屋原彰君 富井政章君 野崎啓造君

石渡敏一君 菊池武夫君 高木豊三君

衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員

伯爵寺島誠一郎君 子爵牧野忠篤君 男爵伊達宗敦君

男爵大浦兼武君 男爵本多副元君 男爵山内豐政君

一本喜徳郎君 岩村兼善君 堀之内庄右衛門君

日本水產銀行法案外一件特別委員

伯爵吉井幸藏君 子爵山口弘達君 男爵小澤武雄君

村田保君 男爵青山元君 男爵中島久万吉君

石井省一郎君 安廣伴一郎君 日高榮三郎君

市制中改正法律案外一件特別委員

伯爵柳澤保惠君 子爵土御門晴榮君 男爵島津珍彥君

男爵藤大路親春君 森山茂君 古莊嘉門君

兒玉淳一郎君 内藤宇兵衛君 道源權治君

明治三十四年法律第三十九號中改正法律案特別委員

子爵松平 乘承君 子爵松平 親信君 子爵森 清君

男爵前島 密君 男爵二條 正麿君 奥山 政敬君

柴田 家門君 秋月 新太郎君

澤原 俊雄君

明治三十年法律第三十九號中改正法律案外一件特別委員

子爵野宮 定穀君 子爵松平 直平君 男爵武井 守正君

男爵千秋 季隆君 西村 亮吉君 千頭 清臣君

馬屋原 二郎君 田島 竹之助君 森廣三郎君

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハアトヨリ御通知ニ及ビマス、本日
ハ是デ散會ヲ致シマス

午前十一時二十五分散會